

日刊県民福井 掲載記事 平成25年 7月18日

身近なボランティア

血液には栄養や酸素を運ぶ、出血を止めるといった生命の維持に欠かせない役割があります。医療技術が進歩した現在でも血液を人工的に造ることはできないため、献血者からの善意でいただいた血液が医療を支えています。

病気やけがなどのために血液を必要としている方が、私たちの周りにはたくさんいます。県内の医療機関では、一日あたり平均四百リットル献血で約七十人分の血液（赤血球製剤として）が必要とされています。

献血は主に献血ルームと献血バスで受け付けています。福井市月見の県赤十字血液センター「献血ホールいぶき」では、献血していただく方がリラックスできるよつに、快適で安心して献血ができる環境を整えています。献血バスは献血に必要な機材が車内に備えられており、事業所や学校、ショッピングモールなどに出張して献血のお願いをし

いきいきライフ

採血基準の一部

	成分献血		全血献血	
	血小板成分献血	血漿成分献血	200 ^{ミリリットル} 献血	400 ^{ミリリットル} 献血
年齢	男性18～69歳※ 女性18～54歳	18～69歳※	16～69歳※	男性17～69歳※ 女性18～69歳※
体重	男性45 ^{キログラム} 以上・女性40 ^{キログラム} 以上		男女とも50 ^{キログラム} 以上	
年間献血回数	血小板成分献血1回を2回分と換算して、血漿成分献血と合計で24回以内		男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内
年間献血量	—		200 ^{ミリリットル} 献血と400 ^{ミリリットル} 献血を合わせて 男性1200 ^{ミリリットル} 以内 女性800 ^{ミリリットル} 以内	

※65～69歳の方については、60～64歳の間に献血したことのある方

尊い命を救う献血

献血には、全血献血（四）百^{ミリリットル}などと成分献血があります。全血献血は、血液

液中の全ての成分を採血する方法です。一方、成分献血は特殊な装置を用いて血小板や血漿といった特定の成分だけを採血し、回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法です。そのため、成分献血は身体への負担も軽く、全血献血に比べて、一年間に血小板や血漿を献血していただける回数が多い特徴があります。

近年は十～二十代の献血者が減少傾向にあり、将来の献血の担い手となる若年層に、献血の意義を深く理解してもらうことが課題です。国の調査によると、献血をしたことのない若い人の多くが、周りの家族や友人から勧められたら献血に行くこと回答しており、周りからのきっかけが重要となっています。

「出前講座」を開催して、

液中の全ての成分を採血する方法です。一方、成分献血は特殊な装置を用いて血小板や血漿といった特定の成分だけを採血し、回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法です。そのため、成分献血は身体への負担も軽く、全血献血に比べて、一年間に血小板や血漿を献血していただける回数が多い特徴があります。

近年は十～二十代の献血者が減少傾向にあり、将来の献血の担い手となる若年層に、献血の意義を深く理解してもらうことが課題です。国の調査によると、献血をしたことのない若い人の多くが、周りの家族や友人から勧められたら献血に行くこと回答しており、周りからのきっかけが重要となっています。

「出前講座」を開催して、

若者の理解と協力課題

県は県赤十字血液センター品・衛生課＝電0776(20)0347＝か、県赤十字血液センター＝電同(36)0221＝へ。
(県医薬食品・衛生課)